

## 次期計画の策定に向けた主な課題認識

ライフ ステージ	普及啓発	口腔機能の獲得、維持・向上		社会環境
		歯科疾患の予防（むし歯・歯周病）		
乳幼児期	<p>○三歳児歯科健康診査以降、公的な歯科健診が終了するため、保育園・幼稚園・認定こども園等と連携し、歯科疾患予防に関する科学的根拠に基づいた正しい知識の普及啓発が必要。</p> <p>○食育分野と連携し、食べ方の発達支援及び知識の普及啓発を行うとともに、「噛ミング30」運動の推進に取り組む。</p>	<p>○むし歯を予防するため、フッ化物の応用（塗布、歯磨き剤、洗口）、シーラント（予防填塞）の実施、間食回数の減、糖を含む飲食物の摂取量の減が必要。</p> <p>○児自身では、十分な歯磨きは行えないため、保護者による仕上げ磨きが必要。</p> <p>○むし歯ハイリスクである者の保護者に対する、個別の歯科保健指導の実施、定期的なフォロー、フッ化物の利用促進等により、早い段階からの支援が必要。</p>	<p>○口腔機能の発達を促すため、<b>離乳期の口腔内状態に合わせた適切な食事形態と与え方</b>で、食事をすることが必要。</p> <p>○歯列不正を予防するため、長期にわたる指しゃぶりやおしゃぶりの使用などの不良習癖に関する注意が必要。</p>	<p>○歯科疾患の予防や口腔機能の健全な発達を支援するため、かかりつけ歯科医機能の定着が必要。</p>
学齢期	<p>○歯と口の健康について初めて自覚できる時期であり、<b>科学的根拠に基づいた正しい知識</b>を持てるよう、歯科保健教育を行う必要がある。</p> <p>○食育分野と連携し、食べ方の発達支援及び知識の普及啓発を行うとともに、「噛ミング30」運動の推進に取り組む。</p>	<p>○フッ化物をできるだけ早い時期に利用することは有効なむし歯予防手段であり、引き続き、小・中学校への<b>フッ化物洗口の普及</b>を図る。</p> <p>○むし歯予防のために、適切な歯磨き習慣（フッ化物配合歯磨き剤の使用量、うがいの水の量・回数等）を獲得することが必要。</p> <p>○永久歯への交換期であり、歯磨きが行いづらい時期であるため、歯磨き指導や歯石除去、シーラント（予防填塞）等、定期的な歯科受診が必要。</p> <p>○むし歯ハイリスクである者（保護者）に対する、個別の歯科保健指導の実施、定期的なフォロー、フッ化物の利用促進等により、早い段階からの支援が必要。</p>	<p>○口腔機能の発達を促すため、よく噛んで味わって食べる必要がある。</p> <p>○不正咬合が懸念される場合は、矯正治療を受ける必要がある。</p>	<p>○歯科疾患の予防や口腔機能の健全な発達を支援するため、かかりつけ歯科医機能の定着が必要。</p>

## 次期計画の策定に向けた主な課題認識

ライフ ステージ	普及啓発	口腔機能の獲得、維持・向上		社会環境
		歯科疾患の予防（むし歯・歯周病）		
成人期・ 妊娠期	<p>○仕事や家庭で多忙な時期であるため、自覚症状があっても、放置しがちではあるが、定期的な歯科受診の必要性を啓発する。</p> <p>○糖尿病は歯周病を悪化させる要因であることや、歯周病は糖尿病の合併症であることなど<b>口腔の健康と全身の健康の関係に関する知識</b>の普及啓発。</p> <p>○歯周病と早産、低体重児出産の関係、喫煙による歯周病への影響等、妊婦及び周囲の方々に対する正しい知識の普及啓発。</p> <p>○妊娠期は、自身と生まれてくる子どもの歯と口腔に関心を持つため、自身に加えて、生まれてくる子どもの歯と口の健康にも関心を持ってもらえるよう早い段階からの情報提供が必要。</p>	<p>○未処置のむし歯保有率が高いとの報告があるため、定期的な歯科検診、むし歯予防・治療が必要。</p> <p>○歯周病の発生時期（罹患する時期）であるため、歯周病の予防のセルフケア（歯間部清掃用器具を用いた適切な歯磨き）とプロフェッショナルケア（定期的な歯石除去等）が必要。</p> <p>○妊婦中の歯科疾患は、早産や低体重児出産と関連するため、妊娠前・妊娠中を通じて、かかりつけ歯科医の指導等を受けながら歯と口の健康づくりに努めるよう促していく必要がある。</p>	<p>○現在歯数の確保が口腔機能の維持には重要であるが、40歳以降は抜歯する人が増えるため、<b>歯の保存</b>に努める。</p>	<p>○成人を対象とした歯科健診の機会は十分でないため、行政は成人が歯科健診・保健指導を利用できる機会の確保と<b>受診率の向上</b>を図る必要がある。</p> <p>○歯科疾患の予防のため、<b>かかりつけ歯科医機能の定着</b>が必要。</p> <p>○法定健診ではないため、事業所における歯科健診、健康教育・保健指導の機会は少なく、事業者に対して歯科健診や歯科保健指導の実施を働きかけていく必要がある。</p> <p>○歯科医療機関には、禁煙指導なども含めた、身体の健康も視野に入れた診療を行うことが求められる。</p>
高齢期	<p>○口腔機能の低下が認められる高齢者が増加している。<b>オーラルフレイルに関する周知</b>も含め、さらなる取組が必要。</p> <p>○加齢とともに、口腔機能が低下するため、唾液分泌を促す口の体操や嚥下体操などの普及を図る必要がある。</p>	<p>○残存歯数は増えており、健康寿命の延伸やQOLの維持・向上のために、かかりつけ医を持ち、定期的な歯科受診をすることが重要。</p> <p>○残存歯の増加に伴い、<b>むし歯や歯周病を有する高齢者も増加</b>するため、定期的な歯科受診や歯科治療が必要。</p>	<p>○口腔機能の維持・向上のために、お口の体操や唾液腺マッサージ等の実施が必要。</p> <p>○「噛みにくい」等の自覚症状の有無と受診率との乖離があるとの報告があるため、<b>訪問診療を含めた定期的な歯科受診を推進</b>することが必要。</p>	<p>○<b>高齢化が進展</b>することを踏まえ、訪問診療や施設のバリアフリー化など、高齢者に対応できる歯科医療機関の増加に向けた取組が必要。</p> <p>○全身的な疾患、降圧剤、利尿剤等の副作用として、唾液分泌の低下や嚥下機能の低下等が起こることがあるため、医療・介護関係者等への注意喚起と医科、歯科、介護の連携が必要。</p>

## 次期計画の策定に向けた主な課題認識

ライフ ステージ	普及啓発	口腔機能の獲得、維持・向上		社会環境
		歯科疾患の予防（むし歯・歯周病）		
要介護者・ 障害者(児)	<p>○要介護者・障害者(児)の日常的な歯口清掃に関わる家族や施設職員等が必要な知識と技術を得る機会は少なく、<b>口腔ケアの技術の普及</b>が必要。</p> <p>○要介護者・障害者(児)の口腔ケアの推進は、食生活の改善、誤嚥性肺炎の予防等につながり、QOLの向上に結びつくことから、口腔ケアの必要性を医療・介護関係職にさらに浸透させていく必要がある。</p>	<p>○介護施設における検診の実施率は増加しているが、検診の結果、<b>必要な口腔ケアや歯科治療</b>が受けられているかについては、更なる現状把握が必要。</p>	<p>○誤嚥性肺炎等を起こしやすいため、安全に食べるための食形態や方法の工夫が必要。</p>	<p>○要介護者等の日常の口腔ケアに対応できる人材が不足しているため、歯科医師会、歯科衛生士会等と協力して<b>人材を育成</b>していく必要がある。</p> <p>○かかりつけ歯科医を持ち、定期的な健診、治療を受けることで、歯科疾患予防を図る必要があるが、障害者(児)の治療が大学病院等に集中しており、健診や予防処置、<b>一般的な治療ができる歯科医療機関の増加や大学病院等の専門医療機関との連携</b>を推進していく必要がある。</p>